

隠岐海区便り (Vol. 77)

◎第320回（第21期第11回）隠岐海区漁業調整委員会を開催しましたので、概要をお知らせします。

出席委員：葛西、前田、佐々木、吉田、濱田、林、長府、亀谷、福山委員

欠席委員：升谷委員

開催日時：平成31年3月20日（水） 14：10～15：40

開催場所：隠岐郡隠岐の島町西町 漁業協同組合 JF しまね西郷支所3階会議室

議題

- （1）島根県の海洋生物資源の保存及び管理に関する計画の変更について（諮問）
 - ①スルメイカの平成31年漁期のTACの決定
 - ②さば類の平成30年漁期のTACの変更
 - ③クロマグロの第5管理期間のTACの決定
- （2）沿岸いか釣漁業及び小型いか釣漁業の操業について（協議）
- （3）つけ漁業保護のための他の漁業の操業及び遊漁の制限について（協議）
- （4）漁業調整規則の一部改正（あさりの殻長制限）について（報告）
- （5）日本海・九州西広域漁業調整委員会指示（トラフグ）について（報告）
- （6）水産政策の改革について（報告）
 - ①区画漁業権の設定・免許の流れ
 - ②海区漁業調整委員会選挙の取扱い
- （7）第7次島根県栽培漁業基本計画の一部見直しに係るアンケート調査の結果について（報告）
- （8）平成30年の島根県の漁業生産の状況について（報告）
- （9）その他

◎委員会での検討結果は次のとおりです。

（1）島根県の海洋生物資源の保存及び管理に関する計画の変更について（諮問）

平成31年漁期のスルメイカ、クロマグロのTACについて、島根県への配分量を定めた旨が国から示され、これに伴い県の管理計画を変更することについて知事から本委員会に対して諮問がありました。また、さば類の知事管理量に追加配分があったため、国から県計画を変更するよう指示がありました。

- スルメイカ：若干
- さば類：24,500 トン（中型まき網漁業への配分量は 23,300 トン）
- クロマグロ：大型魚→23.3 トン
 小型魚→79.0 トン

審議の結果、これらの諮問について、異議のない旨を答申することが決定されました。

（２）沿岸いか釣漁業及び小型いか釣漁業の操業について（協議）

現在、発出されている委員会指示の「沿岸いか釣漁業及び小型いか釣漁業の操業について」が満了を迎えるため、その更新について協議が行われました。

審議の結果、この更新について異論はありませんでした。
また、取扱方針の承認旗の掲揚は削除されました。

（３）つけ漁業保護のための他の漁業の操業及び遊漁の制限について（協議）

現在、発出されている委員会指示の「つけ漁業保護のための他の漁業の操業及び遊漁の制限について」が満了を迎えるため、その更新について協議が行われました。

審議の結果、この更新について異論はありませんでした。

（４）漁業調整規則の一部改正（あさりの殻長制限）について（報告）

漁業調整規則の一部改正（あさりの殻長制限）について県より報告がありました。内容は内水面漁業調整規則に中海及び境水道におけるあさりの殻長制限を加えるというものです。施行日が平成 31 年 10 月 1 日に延期されました。

（５）日本海・九州西広域漁業調整委員会指示（トラフグ）について（報告）

本委員会指示は、九州西海域から日本海（島根県の西側）までの範囲でトラフグの資源管理を広域的に行うため設定されているものです。島根県に承認船はありませんが、規制海域の一部に島根県の沖合が含まれているため、本指示について日本海・九州西広域漁業調整委員会から委員会指示が更新されたため、国から報告がありました。

(6) 水産政策の改革について（報告）

水産政策の改革の①区画漁業権の設定・免許の流れ②海区漁業調整委員会選挙の取扱いについて県より報告がありました。

- 既存の区画漁業権者がきちんと漁業権を利用していれば、従来通りの免許者に漁業権を付与。
- 海区漁業調整委員の公選制を廃止し、公募を行った後、候補者の中から知事が委員を任命する。また、現行委員の任期は平成33年3月31日まで延長。

(7) 第7次島根県栽培漁業基本計画の一部見直しに係るアンケート調査の結果について（報告）

栽培漁業に関するアンケート調査の結果の概要は以下の通りでした。

- マダイ・ヒラメの放流効果を実感していないと回答したのが全体の75%。
- 6割の人がマダイ・ヒラメの放流を希望する一方、3割の人は放流魚種の変更を希望。
- マダイ・ヒラメ以外の放流希望魚種はキジハタ、クロアワビ、アカアマダイといった定着性が強く、高単価のものが多かった。

(8) 平成30年の島根県の漁業生産の状況について（報告）

平成30年の島根県の漁業生産の状況について県より以下の通り説明がありました。

県全体の漁獲量・生産額ともに平年並み。

- 総漁獲量は11万3千トンで前年より1万9千トン減少。
- 総生産額は198億円で、前年より8千万円減少。
- 中型まき網漁業の漁獲量は7万9千トン、生産額は71億6千万円で前年と比べ、漁獲量は減少、漁獲金額は増加。
- 沖合底びき網漁業（2そう曳き）漁獲量は4千4百トン、生産額が20億3千万円、1船団あたりの漁獲量は628トン、生産額は2億9千万円でともに平年並み。
- 小型底びき網漁業は漁獲量4千百トン、生産額は18億3千万円で、1隻あたりの漁獲量は97トン、生産額は4千3百万円でともに平年並み。
- 定置網漁業は漁獲量6千5百トン、生産額は22億円で、隠岐地区ではブリ、ヒラマサ、マイワシが平年を上回ったが、スルメイカは平年を下回り、総漁獲量は平年並み。

- 釣り・はえ縄漁業は漁獲量9百トン、8億4千万円で前年比はともに若干減少。
- いか釣漁業は、漁獲量711トン、生産額は7億1千万円で平年並み。